

令和2年度開講科目 講義シラバス

**理学療法学科
夜間コース2年生**

学校法人 巨樹の会

令和2年度 実施予定 カリキュラム

学校法人 巨樹の会 リハビリテーション学院・学校 【理学療法学科 夜間コース】

分野	教育内容	授 業 科 目	1 年		2 年		3 年		4 年		履修時間	履修単位	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活	人文科学	心理学		30						30	2	
			基礎教養	30							30	2	
			対人関係演習Ⅰ	30							30	2	
			対人関係演習Ⅱ		30						30	2	
	自然科学	統計学					30				30	2	
		情報処理	30								30	2	
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学	解剖学Ⅰ	30							30	2	
			解剖学Ⅱ		30						30	2	
		生理学	生理学Ⅰ	30							30	2	
			生理学Ⅱ		30						30	2	
		運動学	運動機能学Ⅰ	30							30	2	
			運動機能学Ⅱ		30						30	2	
	運動機能学演習		30						30	2			
	人間発達学	人間発達学		30						30	2		
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	臨床医学総論	医学概論		30						30	2	
			病理学概論		30						30	2	
		臨床医学各論	整形外科学		30						30	2	
			内科学		30						30	2	
神経内科学				30						30	2		
臨床心理学					30					30	2		
精神医学			30					30	2				
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論・医学	リハビリテーションと理学療法	30							30	2		
専門分野	基礎理学療法学	理学療法学	基礎理学療法学		30						30	1	
			生活機能演習				30				30	1	
	臨床運動学	臨床運動学演習Ⅰ			30						30	2	
		臨床運動学演習Ⅱ				30					30	2	
	理学療法評価学	理学療法評価学	評価学演習Ⅰ	30							30	1	
			評価学演習Ⅱ		60						60	2	
			評価学演習Ⅲ			60					60	2	
	理学療法治療学	運動療法学	運動療法学演習			60					60	2	
			物理療法学			30					30	1	
		日常生活活動学	日常生活活動学演習Ⅰ		30						30	1	
			日常生活活動学演習Ⅱ			30					30	1	
		義肢装具学	義肢学				30				30	1	
			装具学					30			30	1	
		疾患別理学療法学	疾患別理学療法学	中枢神経系障害の理学療法学Ⅰ			60					60	2
				中枢神経系障害の理学療法学Ⅱ				60				60	2
				運動器系障害の理学療法学Ⅰ				60				60	2
				運動器系障害の理学療法学Ⅱ					60			60	2
	内部系障害の理学療法学Ⅰ						60				60	2	
内部系障害の理学療法学Ⅱ							60			60	2		
小児疾患の理学療法学			30					30	1				
理学療法学技術演習Ⅰ				30				30	1				
理学療法学技術演習Ⅱ					30			30	1				
理学療法学総合学習	理学療法学総合学習							60	60	2			
地域理学療法学	地域理学療法学	生活環境学				30				30	2		
		地域理学療法学演習					30			30	2		
臨床実習	臨床実習	臨床実習						810		810	18		
* 基礎分野: 講義15~30時間1単位 * 専門基礎分野: 講義・演習15~30時間1単位 実習30~45時間1単位 * 専門分野: 同上 * 臨床実習: 45時間1単位	基礎分野		120	30	30	0	0	30	0	0	210	14	
	専門基礎分野		120	150	150	60	0	0	0	0	480	32	
	専門分野(臨床実習を除く)		30	90	120	210	270	270	0	60	1050	39	
	臨床実習		0	0	0	0	0	0	810	0	810	18	
	前後期小計		270	270	300	270	270	300	810	60	2550	103	
前後期合計		540		570		570		870					

I . 基礎分野

講義科目		心理学		
担当講師	道本 典明		授業時間数	30
開講年次	夜間コース	理学療法学科 2年前期	単位数	2
教育目標 ①対人援助職に必要な人間の行動科学の基本原則を学び、対象者理解の基礎を身につける。 ②リハビリテーション治療過程に関わる学習理論、動機づけを理解する。				
No.	講義計画	行動目標 (学習目標)		
1	医療行動科学の基本概念 ①医療の行動科学とは何か	①心理学とは何かを理解する。 ②医療と心理学の関係を理解する。 ③心理学の歴史と現代の医療行動科学の位置づけを理解する。		
2	医療行動科学の基本概念 ②心のモデル	①フロイトの心的力動理論の概要を理解する。 ②人間の適応の概要を理解する。 ③人間情報処理モデルとしての認知科学・神経科学の概要を理解する。		
3	行動科学の基本法則 ①学習の理論	①古典的条件づけの役割、誘因と動因を理解する。 ②道具的条件づけを理解する。 ③認知学習について理解する。		
4	行動科学の基本法則 ②記憶の構造とはたらき	①記憶の区分と働きを理解する。 ②記憶の分類を理解する。 ③パペット回路と記憶障害を理解する。		
5	行動科学の基本法則 ③知覚の様式	①知覚と感覚を理解する。 ②視覚の概要を理解する。 ③聴覚の概要を理解する。		
6	行動科学の基本法則 ④感情	①情動とは何かを理解する。 ②感情の機能を理解する。 ③記憶と感情の関係を理解する。		
7	行動科学の基本法則 ⑤動機と覚醒水準	①動機づけの役割、誘因と動因を理解する。 ②動機づけの種類を理解する。 ③欲求と葛藤、不満行動を理解する。		
8	行動科学の基本法則 ⑥社会心理学	①社会的認知を理解する。 ②自己と他者を理解する。 ③社会化と社会的影響を理解する。		
9	行動科学の基本法則 ⑦ストレスのメカニズム	①ストレスとは何かを理解する。 ②ストレスによる生理学的変化を理解する。 ③ストレスコーピングと自立訓練法を知る。		
10	行動科学的介入の基礎知識 ⑧パーソナリティ	①パーソナリティの形成を理解する。 ②パーソナリティと病気の関係(パーソナリティ理論)を知る。 ③パーソナリティ測定(バウムテスト)を知る。		
11	行動科学的介入の基礎知識 ⑨知性と感性	①知能の定義を理解する。 ②知能検査方法を知る。 ③知能の発達と障害を知る。		
12	行動科学的介入の基礎知識 ⑨心の発達と危機	①発達の概要を理解する。 ②エリクソンのライフサイクル論を理解する。		
13	行動科学的介入の基礎知識 ⑩心の発達と危機	①ピアジェの発達段階を理解する。 ②中年期以降の心理的变化を理解する。		
14	行動科学的介入の基礎知識 ⑪心理学的介入	①精神分析法(内容と人名) ②行動療法(行動療法の理論) ③カウンセリング(来談者中心療法)		
15	まとめ	理解度に合わせて補足を行う。		
教科書	書籍名		著者	出版社
	医療行動科学のためのミニマム・サイコロジー		山田 富美雄	北大路書房
参考図書等				
授業方法			成績評価方法	定期試験、提出課題、授業への取り組み方を総合的に判断し、評価を行う
履修上の注意	心理学は国家試験に出題される重要な科目であり、理学療法士、作業療法士にとって対象者理解にとって必要不可欠な科目であり、記憶学習ではなく人の行動の成り立ちを興味を持ち学習して下さい。			

II. 專門基礎分野

講義科目		人間発達学			
担当講師		押条 賢貴		授業時間数	30
開講年次		夜間コース	理学療法学科 2年前期	単位数	2
教育目標		①身体、運動、認知、心理、社会性など各領域の正常な発達過程を理解する。 ②人間を生物学的存在としてでなく社会的存在としてとらえ、各段階の発達課題を理解する。 ③人間発達学を通じて幅広く豊かな人間観を身につける。			
No.	講義計画	行動目標（学習目標）			
1	人間発達総論	①発達の原則、臨界期、発達段階を説明できる。 ②エリクソン、ピアジェ、フロイトの発達理論を理解する。 ③運動発達の理論を理解する。			
2	発達検査	①人間発達の見方を理解する。 ②発達検査の進め方の概要を理解する。 ③発達障害を呈する主な疾患について検査法選択・実施の概要を理解する。			
3	姿勢反射・反応	①原始反射、姿勢反射の意義を理解する。 ②反射中枢と出現・消失時期を理解する。 ③原始反射、姿勢反射の検査方法を理解する。			
4	胎児期の発達	①胎児の発達過程を理解する。 ②胎児期に出現する反射の確認を行う。			
5	新生児期の発達	①新生児期の運動発達を理解する。 ②主な疾患・障害とそのリハビリテーションの概要を理解する。			
6	乳幼児期の発達	①乳幼児期の運動発達を理解する。 ②主な疾患・障害とそのリハビリテーションの概要を理解する。			
7	幼児期の発達	①幼児期の運動発達を理解する。 ②主な疾患・障害とそのリハビリテーションの概要を理解する。			
8	上肢機能の発達	①上肢機能の発達を理解する。 ②目と手の協調性の発達を理解する。			
9	ADLの発達1(食事・排泄・更衣)	①食事の発達を理解する。 ②排泄の発達を理解する。 ③更衣の発達を理解する。			
10	ADLの発達2(遊び)	①遊びの発達を理解する。			
11	感覚・知覚・認知の発達	①感覚・知覚・認知の発達を理解する。			
12	言語・社会性の発達	①言語の発達を理解する。 ②社会性の発達を理解する。			
13	学童期の発達	①身体、運動、認知、心理及び社会性の発達学的特徴を理解する。 ②発達学的課題を理解する。			
14	青年期の発達	①身体、運動、認知、心理及び社会性の発達学的特徴を理解する。 ②発達学的課題を理解する。			
15	成人・老年期の発達	①青年期の特徴を理解する。 ②我が国の高齢化の特徴及び老年期の発達学的特徴を理解する。 ③成人期・老年期の発達課題を理解する。			
教科書	書籍名		著者	出版社	発行年
	イラストでわかる人間発達学		上杉 雅之 監修	医歯薬出版株式会社	2015年
参考図書等	リハビリテーションのための人間発達学		大城 昌平 編	メディカルプレス	2015年
授業方法	講義および演習方式で授業を行う。		成績評価方法	定期試験、提出課題、授業への取り組み方を総合的に判断し、評価を行う	
履修上の注意	人間の発達を学ぶことは、広くヒトを捉える上で重要な基礎知識となる。また小児科学、子どもを対象とする理学療法・作業療法の評価学・治療学の基礎となる科目である。				

講義科目		病理学概論			
担当講師	王 克鏞		授業時間数	30	
開講年次	夜間コース	理学療法学科 2年後期	単位数	2	
教育目標 ①疾患の原因および形態的变化などの基本概念や用語、基本的視点と関連技術に関する知識を捉える ②医療・医学における病理学の役割、意味、位置づけを理解する					
No.	講義計画	行動目標 (学習目標)			
1	病理学概説、病理学の検査法、病因論	①病理学の意義と検査法について説明できる ②疾患の原因について説明できる			
2	先天異常・奇形	①先天異常・奇形の定義、分類、病態について説明できる			
3	退行性病変、代謝疾患	①退行性病変・代謝障害の種類、病態について説明できる			
4	進行性病変	①進行性病変の種類、病態について説明できる			
5	循環障害	①循環障害の病因、病態について説明できる			
6	炎症	①炎症の定義、病態について説明できる			
7	免疫、感染症	①免疫が関係する疾患の成因、病態について説明できる ②感染の種類について説明できる			
8	腫瘍	①腫瘍の定義、分類、病態について説明できる			
9	循環器系の疾患	①心奇形、虚血性心疾患、動脈硬化症について説明できる			
10	血液、造血器系の疾患	①貧血、白血病について説明できる			
11	呼吸器系の疾患	①肺炎、肺の腫瘍、塵肺症について説明できる			
12	消化器系の疾患	①胃の腫瘍、腸の炎症性疾患、大腸の腫瘍について説明できる ②肝癌、胆石症、膵癌について説明できる			
13	腎、泌尿器、生殖器系の疾患	①腎の腫瘍、泌尿器系の炎症疾患、前立腺の腫瘍、子宮の腫瘍について説明できる			
14	神経系の疾患	①神経系の循環障害、変性疾患、脱髄疾患、腫瘍について説明できる			
15	運動器系の疾患	①萎縮性筋疾患、骨腫瘍について説明できる			
教科書	書籍名		著者	出版社	発行年
	カラーで学べる病理学 第4版		渡辺 照男 編	ヌーヴェル ヒロカワ	2014年
参考図書等	系統看護学講座 専門基礎分野 病理学		大橋 健一	医学書院	2015年
授業方法	講義形式。適宜画像を供覧。		成績評価方法	定期試験、提出課題、授業への取り組み方を総合的に判断し、評価を行う	
履修上の注意	国家試験にも出題される科目であると共に、疾病の成り立ちを理解するうえで重要な科目である。また、細胞の病理学的変化はPT・OT評価に通じる基礎知識となるので、しっかりと理解するようにして下さい。				

講義科目		整形外科学				
担当講師		藤本 一美		授業時間数	30	
開講年次		夜間コース	理学療法学科	2年前期	実務経験 病院において理学療法士として実務経験あり	
					単位数	2
教育目標						
リハビリテーション対象疾患について疫学及び予後、病因と症状・検査及び治療を理解する。						
No.	講義計画	行動目標 (学習目標)				
1	整形外科基礎知識	①正常な骨の発生と成長及び基本構造を理解する。 ②骨の修復と再生、骨の加齢変化について理解する。 ③関節・骨格筋・神経系の基本構造を理解する。				
2	整形外科的治療法	①診療の基本と検査の概要を知る。 ②保存療法の種類・目的・方法の概要を知る。 ③代表的な基本的手術法を知る。				
3	外傷総論	①捻挫と脱臼の違いを理解する。 ②骨折の分類と治癒過程を理解する。 ③骨折の症状・合併症及び治療の原則を理解する。				
4	骨折と脱臼①上肢 (小児骨折含む)	①受傷転機、好発部位、年齢、転移、合併症、治療を理解する。				
5	骨折と脱臼②下肢 (小児骨折含む)	①受傷転機、好発部位、年齢、転移、合併症、治療を理解する。				
6	末梢神経損傷	①末梢神経損傷の分類及び特徴、病態像を理解する。 ②末梢神経損傷の診断と治療を理解する。				
7	靭帯損傷	①代表的な靭帯損傷の症状・診断・治療を理解する。				
8	脊椎疾患	①頸椎疾患の検査、症状、年齢、治療を理解する。 ②胸腰椎疾患の検査、症状、年齢、治療を理解する。				
9	脊髄損傷	①脊髄損傷の概念を理解する。 ②脊髄損傷の受傷機転、病態を理解する。				
10	脊髄損傷	①脊髄損傷の症状を理解する。 ②脊髄損傷の治療を理解する。				
11	炎症性疾患	①軟部組織・骨・関節の感染症の代表的な疾患を理解する。 ②関節リウマチの症状・診断及び治療の概要を理解する。 ③関節リウマチ類似疾患を理解する。				
12	慢性関節疾患(退行性・代謝性)	①変形性関節症の病態・症状及び治療を理解する。 ②痛風の病態・症状・及び治療を理解する。				
13	代謝性骨疾患	①骨粗鬆症の病態・症状及び治療を理解する。 ②くる病・骨軟化症の病態及び治療を理解する。				
14	骨・軟部組織腫瘍 熱傷・切断	①骨腫瘍・軟部組織腫瘍の発生及び治療を理解する。 ②熱傷の深度と範囲による重症度、関節拘縮や変形を理解する。 ③切断の概念・評価・断端管理、合併症を理解する。				
15	先天性骨関節疾患 循環障害と壊死性疾患	①代表的な先天性骨関節疾患の病態を理解する。 ②四肢の循環障害、壊死性疾患の病態及び症状を理解する。				
教科書	書籍名		著者	出版社	発行年	
	標準整形外科 第13版		内田 淳正	医学書院	2014年	
参考図書等						
授業方法	講義形式	成績評価方法	定期試験、提出課題、授業への取り組み方を総合的に判断し、評価を行う			
履修上の注意	理学療法、作業療法臨床において対象となることの多い疾病であり、専門領域につながる重要な科目である。暗記だけでなく、疾病の成り立ちを理解するよう復習をして下さい。					

講義科目		内科学			
担当講師	福岡和白病院 医師		授業時間数	30	
開講年次	夜間コース	理学療法学科 2年前期	単位数	2	
教育目標 内科疾患について疫学及び予後、病因と症状(疾病の成り立ち)、検査および代表的な治療を理解する。					
No.	講義計画	行動目標 (学習目標)			
1	内科学とは 内科的診断と治療の実際	①内科学の概念について理解する。 ②内科的診断における診察法とその臨床的意義について理解する。 ③臨床検査について、その内容、実施方法、意義を理解する。			
2	症候学	①主要な症候の概念とそのメカニズムを理解する。 ②主要な症候を生じる病態とその関連疾患を学習する。			
3	循環器疾患 ①	①虚血性心疾患、高血圧の概念、病理、症状、臨床所見、検査、治療について理解する。 ②虚血性心疾患、高血圧をもつ患者の理学療法・作業療法を実施する際の留意点			
4	循環器疾患 ②	①正常な12誘導心電図を理解する。 ②主な不整脈について波形の特徴、循環導帯を理解する。			
5	循環器疾患 ③	①主要な循環器疾患の概念、病理、症状、臨床所見、検査、治療について理解する。 ②循環器疾患をもつ患者の理学療法・作業療法を実施する際の留意点を学修する。			
6	呼吸器疾患 ①	①呼吸機能を測定する検査法と基準値について理解する。 ②呼吸リハビリテーションについて知る。			
7	呼吸器疾患 ②	①主要な呼吸器疾患の概念、病態生理、症状、検査、治療および予後について理解する。 ②呼吸リハビリテーションについて知る。			
8	消化管疾患	①主要な消化管疾患の症候、病態生理について理解する。 ②主な消化管疾患の概念、診断法、症状、治療法について知る。			
9	肝胆膵疾患	①主要な肝臓、胆道系、膵臓、腹膜疾患の症候、病態生理、症状について理解する。 ②主な肝臓、胆道系、膵臓、腹膜疾患の検査法、治療法を知る。			
10	血液・造血器疾患	①貧血、リンパ節腫脹、出血性病変などの主な症状について知る。 ②主要な血液疾患の概念、病態、診断法、予後について理解する。			
11	代謝性疾患 ①	①糖代謝、蛋白質代謝、脂質代謝のつながりを知る。 ②糖尿病、痛風の病態と臨床的特徴を理解する。			
12	代謝性疾患 ②	①主要な代謝性疾患の病態と臨床的特徴を理解する。 ②ビタミン欠乏症・過剰症の臨床的特徴を理解する。			
13	内分泌疾患	①ホルモンの作用機序を理解する。 ②主要な内分泌疾患の概念、病態、治療法を学修する。			
14	腎・泌尿器疾患 アレルギー疾患	①腎機能が障害されて起こる症状を理解する。 ②主要な腎疾患、泌尿器疾患の概念、病態、症状、検査法、治療法について理解する。			
15	膠原病と類縁疾患、免疫不全症	①主要な膠原病と類縁疾患の症状、診断、治療について理解する。 ②免疫不全による疾患について理解する。			
教科書	書籍名		著者	出版社	発行年
	標準理学療法学・作業療法学 内科学		大成 浄志	医学書院	2004年
参考図書等	病気がみえる vol.1 消化器 第5版		医療情報科学研究所(編集)	メディックメディア	2016年
	病気がみえる vol.2 循環器 第3版		医療情報科学研究所(編集)	メディックメディア	2010年
	病気がみえる vol.4 呼吸器 第2版		医療情報科学研究所(編集)	メディックメディア	2013年
授業方法	講義形式	成績評価方法	定期試験、提出課題、授業への取組み方を総合的に判断し、評価を行う		
履修上の注意	近年、内科領域のリハビリテーションの重要性が高まっており専門分野の基礎となる重要な科目です。国家試験に出題されることの多い疾患を中心に疾病の成り立ちを理解するよう心がけて下さい。				

講義科目		神経内科学		
担当講師	福岡和白病院 医師		授業時間数	30
開講年次	夜間コース	理学療法学科 2年前期	単位数	2
教育目標 各疾患の疫学及び予後、病因と症状、検査及び治療を理解する。				
No.	講義計画	行動目標 (学習目標)		
1	神経内科学オリエンテーション	①神経内科学を学ぶ目的を理解する。 ②脳の構造と機能の概要を理解する。 ③中枢神経と末梢神経の違いを理解する。		
2	神経学的検査と臨床検査	①画像診断の基礎知識と診断基準を理解する。 ②脳脊髄液の検査と診断基準を理解する。 ③脳神経検査, 身体機能検査の診断基準を理解する。		
3	神経症候学(1)	①頭蓋内圧亢進症状を理解する。 ②上位運動麻痺と下位運動麻痺の違いを理解する。 ③筋萎縮を理解する。		
4	神経症候学(2)	①錐体外路の機能を理解する。 ②錐体外路徴候を理解する。 ③錐体路徴候と錐体外路徴候の違いを理解する。		
5	神経症候学(3)	①運動失調の原因と病態を理解する。 ②運動麻痺と運動失調の違いを理解する。 ③感覚障害の分布と特徴を理解する。		
6	脳血管障害(1)	①脳血管障害の分類及び危険因子, 病態を理解する。 ②脳血管障害の診断と治療の概要を理解する。		
7	脳血管障害(2)	①脳出血の発生機序, 診断と治療及び予後, 疫学等を理解する。 ②くも膜下出血の発生機序, 診断と治療及び予後, 疫学等を理解する。 ③脳梗塞の発生機序, 診断と治療及び予後, 疫学等を理解する。		
8	脳血管障害(3)	①水頭症の発生機序, 診断と治療を理解する。 ②慢性硬膜下血腫の発生機序, 診断と治療を理解する。 ③脳外傷の発生機序, 分類, 診断と治療を理解する。		
9	髄膜炎・脳腫瘍	①髄膜炎の病態及び症状を理解する。 ②脳腫瘍の部位と好発年齢及び予後の関係を理解する。 ③脳腫瘍の診断と治療を理解する。		
10	認知症	①認知症を伴う代表的な疾患を理解する。 ②脳血管性認知症とアルツハイマー病の違いを理解する。 ③代表的な認知症疾患の病態及び症状の特徴を理解する。		
11	変性疾患(1)	①パーキンソン病の病態及び症状を理解する。 ②パーキンソン症候群の病態及び症状を理解する。 ③パーキンソン病とパーキンソン症候群の違いを理解する。		
12	変性疾患(2)	①脊髄小脳変性症の病態及び症状を理解する。 ②多系統萎縮症の病態及び症状を理解する。		
13	脱髄疾患	①脱髄疾患の病態を理解する。 ②多発性硬化症の症状を理解する。 ③ギランバレー症候群の症状を理解する。		
14	神経筋疾患	①筋萎縮性側索硬化症の病態と症状を理解する。(神経原性) ②筋ジストロフィー症(典型例)の病態と症状を理解する。(筋原性) ③重症筋無力症の病態と症状を理解する。(神経筋接合部)		
15	疾病の成り立ちまとめ	学習の習熟度に合わせ補足		
教科書	書籍名		著者	出版社
	標準理学療法学・作業療法学 神経内科学		川平 和美 編	医学書院
参考図書等				
授業方法	教科書にそって講義を行う。適宜画像を提示。	成績評価方法	定期試験、提出課題、授業への取り組み方を総合的に判断し、評価を行う	
履修上の注意	解剖生理学に関わらせながら授業の復習を行い確実に理解を深めて下さい。神経内科に関連する基礎・専門は国家試験出題率が高い領域です。			

講義科目		臨床心理学			
担当講師	道本 典明		授業時間数	30	
開講年次	夜間コース	理学療法学科 2年後期	単位数	2	
教育目標 人間行動の基礎理論を学び、正常及び異常心理の評価と行動療法等の心理療法を理解する。					
No.	講義計画	行動目標 (学習目標)			
1	臨床心理学とは	①臨床心理学の定義を理解する。 ②臨床心理学の基本構造を理解する。 ③臨床心理学の成り立ちを理解する。			
2	臨床心理学の実践活動	①臨床心理学の実践活動の過程を理解する。 ②実践活動の3技能を理解する。 ③学派の成立と現在の代表的理論モデルの中心仮説を理解する。			
3	臨床心理学の基礎理論	①ナラティブアプローチの概要を理解する。 ②エンパワメントの概要を理解する。 ③ストレスモデルの概要を理解する。			
4	心を理解する:心理検査法①	①アセスメントの概要を理解する。 ②質問紙法と投射法の特徴と代表的な検査法を理解する。 ③認知検査の概念と代表的検査法を理解する。			
5	心を理解する:心理検査法②	①行動分析の基本的理論を理解する。 ②機能分析の方法を理解する。 ③異常心理の基準を理解する。			
6	ライフサイクルと心理問題①	①エリクソンの生涯発達理論を理解する。			
7	ライフサイクルと心理問題②	①乳幼児期から児童期の心理問題を理解する。 ②思春期の心理問題を理解する。			
8	ライフサイクルと心理問題③	①青年期の心理問題を理解する。 ②中年期の心理問題を理解する。 ③老年期の心理問題を理解する。			
9	ライフサイクルと心理問題④	①乳幼児期から老年期まで一連の心理問題を理解する。			
10	心理療法の理論モデル① 精神分析	①フロイトの「心の力学」を理解する。 ②防衛機制を理解する。 ③ユングの無意識に対する考え方を理解する。			
11	心理療法の理論モデル② 行動療法と認知行動療法	①行動療法と学習理論の考え方を理解する。 ②行動療法の技法を理解する。 ③行動療法から現在の認知行動療法への系譜を理解する。			
12	心理療法の理論モデル① 森田療法,内観療法,箱庭療法,夢分析	①森田療法の理論と方法を理解する。 ②内観療法、箱庭療法、夢分析の概要を理解する。			
13	心理療法の理論モデル① 自律訓練法,系統的脱感作法,集団療法	①自律訓練法の理論と効果を理解する。 ②系統的脱感作法の概要を理解する。 ③集団療法の定義とグループ・ダイナミックスを理解する。			
14	倫理療法の実際 クライアントの心理反応とセラピストの態度	①心理療法の実際の流れを理解する。 ②反動形成、転移などの心理反応を理解する。 ③セラピストの基本的態度を理解する。			
15	まとめ	学習の習熟度に合わせ補足			
教科書	書籍名		著者	出版社	発行年
	面白いほど良くわかる 臨床心理学		下山 晴彦 著	西東社	2014年
参考図書等	よくわかる臨床心理学 公認心理師必携テキスト		下山 晴彦 著 福島 哲夫	ミネルヴァ書房 学研メディカル秀潤社	2011年 2018年
	授業方法	教科書に沿った講義および演習を行う。	成績評価方法	定期試験、提出課題、授業への取り組み方を総合的に判断し、評価を行う	
履修上の注意	国家試験でも重要な科目であると共に、対人援助職にとって重要な知識であるので興味をもって授業に臨んで下さい。				

講義科目		精神医学				
担当講師	二階堂 晴江			授業時間数	30	
開講年次	夜間コース	理学療法学科 2年後期	実務経験	病院において作業療法士として実務経験あり	単位数	2
教育目標 各疾患について疫学及び予後、病因と症状、検査及び治療を理解する。						
No.	講義計画	行動目標 (学習目標)				
1	精神医学とは何か	①精神医学の定義及び概念を理解する。 ②精神障害の成因と発症機序を理解する。 ③精神障害の分類を理解する。				
2	精神機能の障害と精神症状	①精神機能の種類と精神症状を理解する。 ②精神症状の特徴を理解する。 ③精神症状の生活への支障を理解する。				
3	精神障害の診断と評価	①精神障害の診断や評価の基本概念を理解する。 ②面接・観察・情報収集のポイントを理解する。 ③検査法や評価尺度を学ぶ。				
4	脳器質性精神障害	①器質性精神障害の概念を理解する。 ②代表的な認知症の症状、生活障害を理解する。 ③特徴的な脳器質性・症候性精神障害を学ぶ。				
5	アルコール関連精神障害	①依存症による精神障害の概念を理解する。 ②アルコール依存症の特性を理解する。 ③アルコール依存症の後遺障害、生活障害を学ぶ。				
6	薬物精神作用物質依存 てんかん	①依存物質・薬物の種類や特性を理解する。 ②精神依存・身体依存・耐性と依存物質の関係を学ぶ。 ③てんかんの発生機序、分類、症状などの特性を学ぶ。				
7	統合失調症及び関連の精神障害	①統合失調症の発生機序、病態、病型を理解する。 ②症状・障害を理解する。 ③治療の方針、経過、予後、生活への影響について学ぶ。				
8	統合失調症及び関連の精神障害	①統合失調症の病期、回復過程に応じた治療・リハビリテーションを学ぶ。 ②特徴的症狀の治療、経過を学ぶ。 ③生活支援、社会的予後を学ぶ。				
9	気分障害	①気分障害の概念、捉え方を理解する。 ②症状、障害、治療方針、回復過程、経過、予後を学ぶ。				
10	気分障害	①躁うつ病の発生機序、病態、病型を理解する。 ②症状、障害、治療方針、回復過程、経過、予後を学ぶ。 ③気分障害の生活への影響を学ぶ。				
11	神経症圏精神障害	①神経性障害の概念、捉え方を学ぶ。 ②不安、恐怖、強迫症とは何かを学ぶ。 ③ストレス関連障害について学ぶ。				
12	神経症圏精神障害	①摂食障害、身体表現性障害、心身症について学ぶ。 ②人格障害の概念、捉え方を理解する。 ③人格障害の特性を理解する。				
13	精神発達遅滞 心理的発達障害	①精神遅滞、ダウン症について理解する。 ②広汎性発達障害の特性を理解する。 ③行動障害について理解する。				
14	精神障害の治療とリハビリテーション	①精神障害への医学的・治療的捉え方、リハビリテーションを理解する。 ②生活支援、社会資源、法的背景などを学ぶ。 ③精神医学を総括的に理解する。				
15	まとめ	学習の習熟度に合わせ補足				
教科書	書籍名		著者	出版社	発行年	
	学生のための精神医学		太田 保之	医歯薬出版		
参考図書等	標準理学療法学・作業療法学 精神医学		上野 武治 編	医学書院		
	授業方法	教科書、スライド、DVDを用い講義	成績評価方法	定期試験、提出課題、授業への取り組み方を総合的に判断し、評価を行う		
履修上の注意	各精神障害について、原因、発生機序、症状、検査、診断、治療、経過、予後、疾患特性などが結びつき、疾患単位で障害を理解できるような学習が必要。そのため予習復習など主体的に学習を行うことが大切である。					

Ⅲ. 理学療法学科 専門分野

講義科目		臨床運動学演習 I			
担当講師		北村 匡大		授業時間数	30
開講年次		夜間コース	理学療法学科 2年前期	実務経験	病院において理学療法士として実務経験あり
教育目標		理学療法を科学的に実施するために、正常の身体運動の分析と方法を理解する。測定機器を用いて、客観的データに基づいた身体運動における関節・筋活動の理解および運動に対する生理的反応を確認し理解を深める。また、得られた測定結果に対して考察することが出来るようになることを目標とする。			
No.	講義計画	行動目標 (学 習 目 標)			
1	臨床運動学概論	①臨床運動学の意義・目的・範囲を理解する。			
2	動作分析の基礎知識	①物理学の基本を復習する。(物理学の法則、モーメント、床反力) ②物理学の知識が動作につながることを理解する。			
3	動作分析 姿勢分析①	①動作分析の手順が説明できる。 ②正常な姿勢を理解する。分析の方法を計画する。			
4	姿勢分析②	①観察した内容に対しての考察を記載する。 ②姿勢分析について説明する。(発表)			
5	姿勢分析④ 寝返り・起き上がり動作①	①姿勢分析について説明する。(発表) ②寝返り・起き上がり動作を理解する。			
6	寝返り・起き上がり動作② 立ち上がり動作①	①寝返り・起き上がり動作を理解する。 ②立ち上がり動作を理解する。			
7	立ち上がり動作② 寝返り・起き上がり・立ち上がりの動作 分析①	①立ち上がり動作を理解する。 ②寝返り・起き上がり・立ち上がり動作の分析方法を計画する。			
8	寝返り・起き上がり・立ち上がりの動作 分析②	①動作観察の内容を記録する。			
9	寝返り・起き上がり・立ち上がりの動作 分析③	①観察した内容に対しての考察を記載する。			
10	寝返り・起き上がり・立ち上がりの動作 分析④	①観察した内容に対しての考察を記載する。 ②観察した内容に対しての分析内容について説明する。(発表)			
11	寝返り・起き上がり・立ち上がりの動作 分析⑤ 歩行分析①	①観察した内容に対しての分析内容について説明する。(発表) ②歩行について理解する。			
12	歩行分析②	①歩行分析方法を計画する。 ②歩行観察の内容を記載する。			
13	歩行分析③	①歩行観察した内容に対しての考察を記載する。			
14	歩行分析④	①歩行分析内容について説明する。(発表)			
15	姿勢・動作分析まとめ	①筋電図や三次元動作解析装置、床反力計などを用いて動作を考える。 ②歩行支援ロボットの臨床活用について理解する。			
教科書	書 籍 名		著 者	出 版 社	発 行 年
	動作分析臨床活用講座 観察による歩行分析		石井慎一郎 月城慶一,他(訳)	メジカルビュー社 医学書院	2013 2005
参考 図書等					
授業 方法	講義と実技	成績評価 方法	定期試験、提出課題、授業への取り組み方を総合的に 判断し、評価を行う		
履修上 の注意	臨床において必要な知識・技術であるため、しっかりと復習して下さい。				

講義科目		評価学演習Ⅲ					
担当講師		奥之山 峻		授業時間数	60		
開講年次		夜間コース	理学療法学科 2年前期	実務経験	病院において理学療法士として実務経験あり		
教育目標		評価学演習Ⅰおよび評価学演習Ⅱにて学習した内容を踏まえ、理学療法が対象となる各疾患に特異的な評価項目を理解し、実施および記録できることを目標とする。					
No.	講義計画	行動目標(学習目標)		No.	講義計画	行動目標(学習目標)	
1	姿勢制御とバランス反応	姿勢の制御について バランス反応とは		16	片麻痺機能検査 ①	Brunnstrom stage test(上肢)	
2	姿勢反射・反応	①外乱に対する反射・反応 ②リーチ動作時の反射・反応		17	片麻痺機能検査 ②	Brunnstrom stage test (手指・下肢)	
3	バランス評価 ①	バランス評価とは		18	片麻痺機能検査 ③	12段階式片麻痺機能テスト SIAS(Stroke Impairment Assessment Set)	
4	バランス評価 ②	FRT(Functional Reach Test)および TUG(Timed Up to Go)の原理と方法、臨床的意義		19	片麻痺機能検査 ④	SIAS(Stroke Impairment Assessment Set) NIHSS	
5	バランス評価 ③	BBS(Berg Balance Scale)の原理と方法、臨床的意義		20	骨関節系疾患の評価総論	評価の意義・目的 リスク管理	
6	歩行評価	歩行評価とは 10m歩行		21	股関節疾患の評価 ①	股関節疾患の評価について 股関節の整形外科テスト	
7	意識レベルの検査 精神状態の診かた	①意識レベルとは ②JCS、GCS ③認知検査		22	股関節疾患の評価 ②	股関節疾患の評価について 股関節の整形外科テスト	
8	中枢神経系疾患の評価総論	評価の意義・目的 リスク管理		23	膝関節疾患の評価 ①	膝関節疾患の評価について 膝関節の整形外科テスト	
9	脳神経検査 ①	脳神経の役割		24	膝関節疾患の評価 ②	膝関節疾患の評価について 膝関節の整形外科テスト	
10	脳神経検査 ②	脳神経検査の意義・方法・実技		25	足関節疾患の評価	足関節疾患の評価について 足関節の整形外科テスト	
11	脳神経検査 ③	脳神経検査の意義・方法・実技		26	脊椎疾患の評価 ①	脊椎疾患の評価について 脊椎疾患の整形外科テスト	
12	筋緊張検査 ①	筋緊張とは 評価の意義 Modified Ashworth Scale 深部腱反射との関連性		27	脊椎疾患の評価 ②	脊椎疾患の評価について 脊椎疾患の整形外科テスト	
13	筋緊張検査 ②	筋緊張検査の方法と記載法		28	上肢疾患の評価 ①	上肢疾患の評価について 上肢の整形外科テスト	
14	協調性検査 ①	協調性検査の種類、実技		29	上肢疾患の評価 ②	上肢の整形外科テスト	
15	協調性検査 ②	協調性検査の種類、実技		30	まとめ①	まとめと復習	
教科書	書籍名			著者		出版社	発行年
	理学療法評価学 改訂第5版 脳卒中の機能評価 SIASとFIM			松澤正・他 千野 直一		金原出版 金原出版	2016 2015
参考図書等	ベッドサイドの神経の診かた			田崎義昭		南山堂	2016
授業方法	演習および講義			成績評価方法	定期試験、提出課題、授業への取り組み方を総合的に判断し、評価を行う		
履修上の注意	演習中心の科目です。知識だけでなく、身体を動かして技術を獲得しましょう。 また、練習相手は固定ではなく色々な人とペアを組んで練習しましょう。						

講義科目		運動療法学演習					
担当講師		石掛 陽介			授業時間数	60	
開講年次		夜間コース	理学療法学科 2年後期	実務経験	病院において理学療法士として実務経験あり	単位数	2
教育目標		運動療法における運動療法学の歴史および位置づけを認識し、基本的運動療法について、方法、適応、禁忌およびリスク管理を理解し、安全で効果的に実施できることを目標とする。					
No.	講義計画	行動目標（学習目標）		No.	講義計画	行動目標（学習目標）	
1	運動療法総論	①運動療法の定義、歴史を理解する。 ②運動療法の目的、効果、リスク管理を理解する。		16	体力の改善演習②	①全身持久力改善の方法を理解する。	
2	痛みの軽減と除去	①痛みの分類・評価を理解する。 ②痛みに対する運動療法を実施できる。		17	体力の改善演習③	①運動負荷試験を体験する。 ②運動処方(頻度・強度・種類・時間)を理解し、体験する。	
3	関節可動域の改善①	①関節の形態と機能、関節可動域制限因子を理解する。②関節可動域運動の目的と種類を理解する。		18	体力の改善演習④	①運動負荷試験を体験する。 ②運動処方(頻度・強度・種類・時間)を理解できる。	
4	関節可動域運動演習②(上肢)	①肩甲帯・肩・肘・手指の関節可動域運動の方法を理解する。②それら関節可動域運動を実施できる。		19	協調性改善	①協調性障害を理解する。 ②協調性障害の運動療法を理解できる。	
5	関節可動域運動演習③(体幹)	①頸部・胸部・胸腰部の関節可動域運動の方法を理解する。②それら関節可動域運動を実施できる。		20	バランスの改善	①バランス障害を理解する。 ②バランス障害の運動療法を理解できる。	
6	関節可動域運動演習④(下肢)	①股・膝・足の関節可動域運動の方法を理解する。②それら関節可動域運動を実施できる。		21	基本動作の獲得・改善①	①基本動作を理解する。 ②基本動作の観察・視点を理解する。	
7	ストレッチング理論①	①ストレッチの原理、効果、種類を理解する。		22	基本動作の獲得・改善②	①基本動作に対する運動療法の方法を理解する。	
8	ストレッチング演習②(上肢)	①肩甲帯・肩・肘・手指のスタティックストレッチを実施できる。②それらのセルフストレッチングを実施できる。		23	歩行動作の獲得・改善①	①歩行動作を理解する。 ②歩行動作の観察・視点を理解する。	
9	ストレッチング演習③(体幹)	①頸部・胸部・胸腰部のスタティックストレッチを実施できる。②それらのセルフストレッチングを実施できる。		24	歩行動作の獲得・改善②	①歩行動作に対する運動療法の方法を理解する。	
10	ストレッチング演習④(下肢)	①股・膝・足のスタティックストレッチを実施できる。②それらのセルフストレッチングを実施できる。		25	中枢神経系障害の運動療法	①中枢神経系障害の障害を理解する。②中枢神経系障害の運動療法の概要を知る。	
11	筋力の改善理論①	①運動単位と筋線維型を理解する。 ②筋の肥大と萎縮を理解する。 ③筋力の低下、疲労を理解する。		26	骨関節系障害の運動療法	①骨関節系障害の障害を理解する。 ②骨関節系障害の運動療法の概要を知る。	
12	筋力の改善理論②	①筋持久力について理解する。 ②過負荷・特異性の原理を理解する。 ③筋力トレーニングの特異性を理解する。		27	内部系障害の運動療法	①内部系障害の障害を理解する。②内部系障害の運動療法の概要を知る。	
13	筋力の改善演習③(上肢)	①上肢の筋力改善プログラムを立案できる。②それら漸増抵抗運動を実施できる。		28	高齢者と理学療法および廃用症候群に対する運動療法	①高齢者の特徴を理解する。②廃用性症候群の症状を理解する。③上記に対する運動療法の概要を知る。	
14	筋力の改善演習④(下肢)	①下肢の筋力改善プログラムを立案できる。②それら漸増抵抗運動を実施できる。		29	運動学習及び臨床的応用	①運動学習の影響因子を理解する。 ②運動学習の臨床的応用を理解する。	
15	体力の改善理論①	①体力の定義を理解する。 ②全身持久力について理解する。 ③無酸素性作業域値について理解する。		30	まとめ	各々の運動療法における要点について理解する。	
教科書	書籍名		著者		出版社	発行年	
	運動療法学 改訂2版		柳澤 健(編集)		金原出版	2011	
参考図書等	指定しない。						
授業方法	講義と演習【実技】			成績評価方法	定期試験、提出課題、授業への取り組み方を総合的に判断し、評価を行う		
履修上の注意	理学療法(士)の基礎となる重要な科目です。予習・復習を欠かさず、講義・演習(実技)に真剣に臨みましょう。						

講義科目		物理療法学			
担当講師		中元 修		授業時間数	30
開講年次		夜間コース	理学療法学科 2年後期	実務経験	病院において理学療法士として実務経験あり
教育目標		種々の物理療法の原理、目的、生理的作用、適応、禁忌および実施の手順について理解する。 症状に応じた物理療法を選択できる。			
単位数		1			
No.	講義計画	行動目標 (学習目標)			
1	物理療法総論・炎症	理学療法における物理療法の位置づけとその定義を理解する。 炎症および組織修復の定義、機序について理解する。 炎症および組織修復に対する物理療法の考え方を理解する。			
2	痛み・温熱療法概論	痛みの定義、機序について理解する。 痛みに対する物理療法の考え方を理解する。 温熱療法の物理的特性、分類、生理学的作用を理解する。			
3	温熱療法各論①	ホットパック、パラフィンの特徴、生理学的作用、適応、禁忌、実施手順を理解する。			
4	温熱療法各論②	極超短波の特徴、生理学的作用、適応、禁忌、実施手順を理解する。			
5	温熱療法各論③	超音波の特徴、生理学的作用、適応、禁忌、実施手順を理解する。			
6	温熱療法各論④	超音波の特徴、生理学的作用、適応、禁忌、実施手順を理解する。			
7	温熱療法演習	ホットパック、パラフィン、極超短波、超音波を実施できる。			
8	寒冷療法概論・各論	寒冷療法の物理的特性、分類、生理学的作用を理解する。 アイスパック、クリッカーの特徴、適応、禁忌、実施手順を理解する。			
9	光線療法概論・各論	光線療法の物理的特性、分類、生理学的作用を理解する。 赤外線・レーザーの特徴、適応、禁忌、実施手順を理解する。			
10	水治療法概論・各論	水治療法の物理的特性、分類、生理学的作用を理解する。 渦流浴、プール浴、交代浴の特徴、適応、禁忌、実施手順を理解する。			
11	寒冷・光線・水治療法演習	アイスパック、クリッカーを実施できる。 赤外線療法を実施できる。 渦流浴を実施できる。プール浴を理解する。			
12	電気療法概論・各論①	電気刺激療法の物理的特性、分類、生理学的作用を理解する。 電気刺激によるバイオフィードバック療法を理解する。			
13	電気療法各論②	治療的電気刺激療法(TES)、神経・筋電気刺激療法(NMES)、経皮的末梢神経電気刺激療法(TENS)、干渉波電気刺激療法(IFCS)、機能的電気刺激療法(FES)の特徴、適応、禁忌、実施手順を理解する。			
14	牽引療法概論・各論	牽引療法の物理的特性、分類、生理学的作用を理解する。 頸椎牽引、腰椎牽引の特徴、適応、禁忌、実施手順を理解する。			
15	電気刺激・牽引療法演習・まとめ	TES、NMES、TENS、IFCS、FES電気刺激療法を実施できる。 頸椎牽引、腰椎牽引を実施できる。 各々の物理療法の要点を理解する。			
教科書	書籍名		著者	出版社	発行年
	理学療法テキスト IX 物理療法 第2版		監修 千住秀明	神陵文庫	2009
参考図書等	理学療法士のための物理療法臨床判断ガイドブック		編集 木村貞治	文光堂 MEDICAL VIEW	2007 2009
	ゴールドマスターテキスト3 物理療法学				
授業方法	講義と演習形式にて実施。		成績評価方法	定期試験、提出課題、授業への取り組み方を総合的に判断し、評価を行う	
履修上の注意	物理療法機器の取り扱い実習着の着用必須				

講義科目		日常生活活動学演習 I			
担当講師		長嶺 翔吾		授業時間数	30
開講年次		夜間コース	理学療法学科 2年前期	実務経験	病院において理学療法士として実務経験あり
教育目標		日常生活の基本として遂行される動作を取り上げ、それらの動作遂行に必要な条件を解説するとともに、ADL障害に対して動作の支援、援助方法を理解し実践する。 self careの概念、位置づけを学び適切なADL指導を理解する。 障害に応じた移動補助具を選択するとともにそれらの活用および指導技術を習得する。			
No.	講義計画	行動目標 (学習目標)			
1	ADLの概念と範囲	ADLの概念や範囲を理解する。ADLとQOLの関係を理解する。			
2	日常生活活動の運動学	静的基本動作の定義・分類を理解し実際の動作と結びつける。			
3	日常生活活動の運動学	動的基本動作の定義・分類を理解し実際の動作と結びつける。			
4	起居・移動動作について	重心や支持基底面の関係が動作に与える影響を理解し、動作支援におけるポイントを理解する。			
5	起居・移動動作について	寝返りを構成する動作を理解し、動作を阻害する因子を考察する。寝返り動作を支援するポイントを理解する。			
6	起居・移動動作について	起き上がりを構成する動作を理解し、動作を阻害する因子を考察する。起き上がり動作を支援するポイントを理解する。			
7	起居・移動動作について	立ち上がりを構成する動作を理解し、動作を阻害する因子を考察する。立ち上がり動作を支援するポイントを理解する。			
8	起居・移動動作について	移乗を構成する動作を理解し、動作を阻害する因子を考察する。移乗動作を支援するポイントを理解する。			
9	self careについて	食事・整容動作の意義・構成する動作を理解し、必要な要素や指導の要点を理解する。			
10	self careについて	排泄動作の意義・構成する動作を理解し、必要な要素や指導の要点を理解する。			
11	self careについて	更衣、入浴動作の意義・構成する動作を理解し、必要な要素や指導の要点を理解する。			
12	移動補助具について(杖)	杖の構造・特徴・種類を理解し、実際に杖の処方ができる。			
13	移動補助具について(杖)	演習を通して杖歩行パターン・応用杖動作など障害に応じた指導ができる。			
14	移動補助具について(松葉杖)	松葉杖の構造・特徴・種類を理解し、実際に松葉杖の処方ができる。演習を通して松葉杖歩行パターン・応用松葉杖動作など障害に応じた指導ができる。			
15	移動補助具について(歩行器)	歩行器の構造・特徴・種類を理解し、実際に歩行器・歩行車の処方を行い障害に応じた指導ができる。			
教科書	書籍名		著者	出版社	発行年
	日常生活活動(ADL) 第2版		千住 秀明	神陵文庫	2007
参考図書等	新版 日常生活活動(ADL)－評価と支援の実際－		伊藤利之・江藤文夫	医歯薬出版	2010
授業方法	講義および演習		成績評価方法	定期試験、提出課題、授業への取り組み方を総合的に判断し、評価を行う	
履修上の注意	演習が中心の講義です。自身の身体を使い理解を深めて下さい。				

講義科目		日常生活活動学演習Ⅱ			
担当講師		長嶺 翔吾		授業時間数	30
開講年次		夜間コース	理学療法学科 2年後期	実務経験	病院において理学療法士として実務経験あり
教育目標		障害に応じた移動補助具を選択するとともにそれらの活用および指導技術を習得する。 self careの概念、位置づけを学び適切なADL指導を理解する。 ADL評価の意義および検査方法を理解する			
No.	講義計画	行動目標 (学習目標)			
1	移動補助具について(車椅子)	車椅子の構造・特徴・種類を理解し、実際に車椅子の処方を行い障害に応じた指導ができる。			
2	移動補助具について(車椅子)	演習を通して車椅子の処方を行い障害に応じた指導ができる。			
3	移動補助具について(車椅子)	演習を通して障害に応じた車椅子介助ができる			
4	日常生活活動の評価	ADL評価の目的を理解する。できるADLとしているADLについて理解する。実用性とは何かを説明できる。代表的なADL評価を説明できる。			
5	日常生活活動の評価	Barthel indexの概要・使用方法を理解する。			
6	日常生活活動の評価	Barthel indexの概要・使用方法を理解しcaseを評価する。			
7	日常生活活動の評価	FIMの概要・使用方法を理解する。			
8	日常生活活動の評価	食事動作・整容動作・更衣動作についてのADL指導および評価上の注意点を理解する。			
9	日常生活活動の評価	排泄動作・入浴動作についてのADL指導および評価上の注意点を理解する。			
10	日常生活活動の評価	移乗動作・移動動作についてのADL指導および評価上の注意点を理解する。			
11	日常生活活動の評価	コミュニケーション障害・社会的認知項目について評価上の注意点を理解する。			
12	日常生活活動の評価	症例検討①			
13	日常生活活動の評価	症例検討②			
14	福祉機器について	リフト・特殊寝台などの構造・特徴・種類を理解し、障害に応じた指導ができる。			
15	日常生活活動 総括	学習の習熟度の合わせて不足部分を補う。			
教科書	書籍名		著者	出版社	発行年
	日常生活活動(ADL)第2版 脳卒中の機能評価SIASとFIM(基礎編)		千住 秀明 千野直一	神陵文庫 金原出版	2007 2012
参考図書等	新イラストによる安全な動作介助のてびき第3版		飛松 好子	医歯薬出版	2016
授業方法	講義および演習		成績評価方法	定期試験、提出課題、授業への取組み方を総合的に判断し、評価を行う	
履修上の注意	日常で行っている各動作が、どのような要素で成り立っているか、各自の日常生活を振り返りながら学習してください。				

講義科目		中枢神経系障害の理学療法学 I					
担当講師		中崎 満		授業時間数	60		
開講年次	夜間コース	理学療法学科	2年後期	実務経験	病院において理学療法士として実務経験あり		
教育目標		脳血管障害の発生機序と障害像を把握した上で、片麻痺に対する理学療法を理解する。					
No.	講義計画	行動目標(学習目標)		No.	講義計画	行動目標(学習目標)	
1	中枢神経系障害の理学療法総論	脳の可塑性と運動療法、基本的な機能予後・回復過程について理解する。		16	急性期の理学療法	急性期理学療法の実際について理解する。	
2	画像	基本的な脳画像の見かた、CT・MRIの分類について理解する。		17	回復期の理学療法	回復期の特徴を踏まえ、リスク管理、評価、目標設定について理解する	
3	中枢神経系障害の基礎解剖①	中枢神経・脳の構造と機能、脳動脈と灌流領域について理解する。		18	回復期の理学療法	回復期理学療法の実際について理解する。	
4	中枢神経系障害の基礎解剖②	辺縁系・基底核の構造と機能について理解する。		19	維持期・在宅期の理学療法	維持・在宅期の特徴を踏まえ、リスク管理、評価、目標設定について理解する	
5	中枢神経系障害の基礎解剖③	間脳・脳幹・小脳の構造と機能について理解する。		20	維持期・在宅期の理学療法	維持・在宅期理学療法の実際について理解する。	
6	中枢神経系障害の基礎解剖④	脳血管・脳室・脳脊髄液の構造と機能について理解する。		21	中枢神経系障害の理学療法について	急性期・回復期・維持期の理学療法の違いについて理解する	
7	中枢神経系障害の基礎解剖⑤	伝導路(上行路と下行路)の構造と機能について理解する。		22	中枢神経系障害のADL指導	理学療法を理解する。 (臥位姿勢・寝返り動作・起き上がり動作・床上動作)	
8	脳梗塞の病態	脳梗塞の概要、分類(機序・臨床病型・病変部位からの分類)について理解する。		23	中枢神経系障害のADL指導	理学療法を理解する。 (座位姿勢・立ち上がり動作・立位姿勢)	
9	脳出血の病態	脳出血の概要、各出血(被殻・視床・脳幹・小脳・皮質下出血)の病態について理解する。		24	中枢神経系障害のADL指導	理学療法を理解する。 (車椅子シーティング・移乗動作)	
10	くも膜下出血の診断と治療	くも膜下出血の疫学、画像、診断、検査、治療、3大合併症について理解する。		25	中枢神経系障害のADL指導	理学療法を理解する。 (歩行・階段昇降・応用歩行)	
11	画像診断	脳梗塞・脳出血画像について理解する。		26	中枢神経系障害のADL指導	理学療法を理解する。 (更衣動作・整容動作・排泄動作・入浴動作)	
12	まとめ	中枢神経系障害の理学療法 I をまとめる。		27	中枢神経系障害のADL指導	理学療法を理解する。 (食事動作・嚥下障害)	
13	中枢神経系障害の理学療法各論	脳卒中ガイドライン、ニューロリハビリテーション、ファシリテーションテクニックについて理解する。		28	その他の理学療法について	上肢機能障害、片麻痺の方に対する理学療法について理解する。	
14	中枢神経系障害の理学療法各論	中枢神経系障害の評価を理解する。		29	その他の理学療法について	痙縮に対する理学療法、体力低下に対する理学療法について理解する。	
15	急性期の理学療法	急性期の特徴を踏まえ、リスク管理、評価、目標設定について理解する。		30	まとめ	中枢神経系障害の理学療法 I をまとめる。	
教科書	書籍名		著者	出版社	発行年		
	病気が見える7(脳・神経) ビジュアル実践リハ 脳・神経系リハビリテーション		医療情報科学研究所 潮見 泰藏	Medic Media 羊土社	2014 2012		
参考図書等	脳卒中理学療法の理論と技術 PT・OTのための画像のみかた		原寛美、吉尾雅春 山下 敏彦 監修	MEDICAL VIEW 金原出版	2013 2016		
	授業方法	講義および演習	成績評価方法	定期試験、提出課題、授業への取り組み方を総合的に判断し、評価を行う			
履修上の注意	脳血管障害の発生機序と障害像を理解するために、神経系の解剖をしっかりと復習すること。						

講義科目		小児疾患の理学療法学			
担当講師		古井 雅也		授業時間数	30
開講年次		夜間コース	理学療法学科 2年後期	実務経験	病院において理学療法士として実務経験あり
教育目標		小児期に発症する疾患について、疾患の知識及び派生する障害像を理解するとともに、それに対するリハビリテーションの流れおよび理学療法を理解する			
No.		講義計画			
		行動目標 (学習目標)			
1	正常運動発達	背臥位～腹臥位～座位～立位・微細運動の発達について理解する			
2	発達・運動発達の評価	発達検査、運動発達検査、日常生活および能力障害の検査について理解する			
3	正常姿勢反射の発達	中枢神経系の発達・姿勢反射について理解する			
4	脳性麻痺の概論	療育の理念・脳性麻痺の定義・原因・分類について理解する			
5	異常姿勢反射の発達	異常姿勢反射・運動発達障害について理解する			
6	痙直型両麻痺の概要	痙直型両麻痺の臨床症状・異常運動発達 について理解する			
7	痙直型両麻痺の理学療法	痙直型両麻痺の評価・理学療法 について理解する			
8	痙直型四肢麻痺・片麻痺の概要と理学療法	痙直型四肢麻痺の臨床症状・異常運動発達・理学療法 痙直型片麻痺の臨床症状・異常運動発達・理学療法 について理解する			
9	アトーゼ型脳性麻痺の概要と理学療法	アトーゼ型脳性麻痺の臨床症状・異常運動発達・理学療法について理解する			
10	脳性麻痺のまとめ	問題を解き、理解度を深める			
11	子どもの遺伝性疾患の概要	Duchenne型筋ジストロフィー・その他遺伝性疾患の疾患概要について理解する			
12	子どもの遺伝性疾患の理学療法	Duchenne型筋ジストロフィーの病期と理学療法について理解する			
13	子どもの整形外科疾患(二分脊椎・ペルテス病など)	二分脊椎・ペルテス病・発育性股関節形成不全について理解する			
14	その他の疾患(ダウン症)・胎児期の発達	ダウン症候群の運動発達と理学療法について理解する			
15	その他の疾患	その他の小児期に特有の疾患についての理学療法を理解する			
教科書	書籍名		著者	出版社	発行年
	シンプル理学療法学シリーズ 小児理学療法学テキスト		細田 多穂 監修	南江堂	2014
参考図書等	写真で見る乳児の運動発達		Lois Bly (著), 木本 孝子, 中村 勇 (共訳)	協同医書出版	1998
	PTマニュアル 小児の理学療法		河村 光俊(著)	医歯薬出版	2004
	イラストでわかる 小児理学療法学		上杉 雅之	医歯薬出版	2013
授業方法	講義中心、必要に応じて演習を取り入れる。		成績評価方法	定期試験、提出課題、授業への取組み方を総合的に判断し、評価を行う	
履修上の注意	予習、復習に努めてください。 授業で触れない教科書の章に関しては、発展項目として自主的に学習して下さい。				

